

三重県私費海外留学生体験記
森下 将宏さん (スコットランド)
エディンバラ大学大学院 デザイン・インフォマティクス修士課程

2017年1月更新

・専攻していた科目の学習内容、成績について

セメスター1 は講義とグループワークを中心とした科目が中心で、デザイン思考の基礎や今後鍵となる最新技術に関しての理論と応用を学びました。専攻全体における共通テーマとして、データの分析および活用があります。エディンバラ市議会との行動プロジェクトや、ロイヤルバンク・オブ・スコットランドへ訪問して既存事業におけるデザインの応用についてディスカッションを実施するなど、大学内にとどまらないさまざまな活動を行いました。

セメスター2 は実践が中心のカリキュラムで、セメスター1 で学んだ内容の応用編が中心となりました。スコットランド国立美術館から協力を得て、テクノロジーとデザインで訪問者の顧客体験を向上させるプロジェクトや、インターネットブラウザ上で動作するデータビジュアライゼーション・アート作品の制作など、今までに実施したことがない内容に取り組みました。

卒業プロジェクトはプライバシーをテーマに、今後個人情報がどのような価値を持つかについてコンピューティングの歴史から最新技術トレンドに踏み込みつつまとめました。また Unity 上にて拡張現実を用いたモバイルアプリケーションのプロトタイプを制作し、顔認証技術によって今後どのようなプライバシー・データの市場が生み出されるかについての検証を行いました。

・卒業後の進路について(進路、インターンシップ、日本または海外での就職活動等)

8 月末に修士課程のコースを修了し、その後帰国後東京に在住しております。9 月 1 日付けで前職時代の上司が創業したベンチャー企業である株式会社カウリスに就職致しました。日々の業務内容としては、マーケティング、PRをはじめ事業戦略や経営企画補佐などを担当しております。閉鎖的なセキュリティ業界に一石を投じ、プラットフォーム化戦略によって日本ひいては世界のインターネット事業者の皆様をお守りするべくビジネスを推進しております。IoT セキュリティやブロックチェーンを活用したサイバー保険など今後新たに市場が創出される領域にも積極的に進出を予定しております。

・今後留学を考えている人へのアドバイス、心構えとして伝えたいこと

自分の短期・中期・長期のキャリアプランを考えただけで、それに対して留学がどう役立つのかという視点で考えることで、留学先の国・大学・専攻をより正確に決定しやすいのではないかと思います。国によって大学の制度が違ったり、また海外現地就職を目指すのであればそれぞれの国における移民政策なども理解する必要があるため、幅広い知見を持っておくことが大切かと思います。留学中はさまざまな新しいものへチャレンジする機会があるので、そのチャンスを逃さないようにしましょう。

2016年5月更新

・専攻している科目の学習状況について

前期は講義をはじめとするコースワークが中心で、「Case Studies in Design Informatics 1」「Design For Informatics」「Histories and Futures of Technology」の3つの授業を受講しました。デザインおよびテクノロジーに関して、基礎から応用まで幅広く学びました。専攻全体における共通テーマとして、データの分析および活用があります。エディンバラ市議会との行動プロジェクトや、ロイヤバンク・オブ・スコットランドへ訪問して既存事業におけるデザインの応用についてディスカッションを実施するなど、大学内にとどまらないさまざまな活動を行いました。各授業の課題に関しては、グループワークが中心となり、世界各国から同じコースに参加するクラスメイトとさまざまな意見を交換しました。理論・リサーチ・実践の3つの項目に重きが置かれ、特に実践の部分では実際に製品を制作することが求められるため、チャレンジングなことが多かったです。2学期目は1学期での研究をもとにより専門性が求められるため、計画的に研究を進めていきたいと考えております。

・ボランティアやアルバイトなど、どのような学業以外の活動をしていますか。

留学直前にお手伝いをさせて頂いていた、大阪に本拠を置くモバイル・アプリケーションのベンチャー企業での仕事をリモートワークで実施しております。また、ヨーロッパ地域でのテクノロジー業界の状況を把握するために、ヘルシンキで開催された Slush 2015、およびロンドンで開催された TechCrunch Disrupt など各地域のテクノロジー・カンファレンスに積極的に参加し、当地での自分自身のネットワーク拡大に向けて尽力しました。その他、エディンバラ大学主催のビジネスアイデアコンテストにクラスメイトと協力してビデオを制作・提出し、優秀賞を頂くなどしました。

・三重県や日本の文化や習慣等について紹介する機会はありますか。

日本文化への関心はスコットランドでも非常に高く、クラスメイトをはじめ多くの友人から積極的に文化に関する質問を受けたため、色々と紹介する機会に恵まれました。また、学生寮のメンバーやクラスメイトを中心にホームパーティーを何度か開催し、日本食を友人に振る舞う機会を何度か設けました。

・あなたの留学の目的は何ですか。

大学在学中から世界中の IT 起業家たちと交流を広げ、また卒業後も日本を代表する情報セキュリティベンチャー企業でマーケティング・マネージャーとして働く過程で、ICT(情報通信技術)が現在最も発展している地域にてさらなる知見を得たいとの想いを強め、留学を決意致しました。ICT やベンチャー企業といえば、シリコンバレーをはじめとする米国のイメージが強いものの、私自身もヨーロッパで開催される IT カンファレンスに何度か参加させて頂く過程で、米国とは異なるヨーロッパの多様なベンチャー文化に触れるとともに、ヨーロッパ独自の文化・教育制度に大変魅力を感じるようになりました。

・専攻している(する予定の)科目の学習内容について書いてください。

エディンバラ大学が提供する修士課程のデザイン情報学コースでは、デザイン専攻の学

生と情報学専攻の学生が同じ授業・プロジェクトにおいて共に学ぶことで、ICT におけるさまざまな課題をデザインと情報学の両方の力で解決しようという試みがなされています。1年間を通じて、単なる受け身の授業だけでなくさまざまなプロジェクト・ワークが用意されており、BBC・Microsoft・Amazon・Skyscanner をはじめとした現地企業や、エディンバラ市など行政も含めた外部組織との協働も多くあります。そして教育プログラムだけでなく、地元の起業家にオフィススペースを提供することで、学生とのさまざまなコラボレーションをはかる「Resident Entrepreneurs」というプログラムも用意され、単なる座学にとどまらない、実践を前提としたカリキュラムが多く用意されています。

・留学大学に入学するにあたり、どのような手続きやテストが必要でしたか。

英国の大学院留学にあたって必要なテストは、英語力を測るための TOEFL もしくは IELTS のみになります。私の場合は過去に受験経験のあった TOEFL を受験しましたが、英国内での TOEFL の有効性が徐々に低下してきているため、今後は IELTS が中心となってくる可能性も考えられます。出願はすべてオンラインで完結し、英語試験以外にも、志望動機などのエッセイ、推薦書 2 通(私の場合は学部時代の教授、および学生時代にお世話になっていた事業会社マネージャーにお願いしました)、その他基本的な情報の入力が必要です。

・留学校を決めるにあたって利用した資料や機関はありますか。

留学校を決めるにあたっては、主にインターネットを活用して情報収集をしました。希望する地域(主に、アメリカ・イギリス・カナダ・オーストラリアをはじめとする英語圏)で、自分が希望するコースに近いプログラムを持つ大学を重点的に調べました。国内に海外の大学院留学経験者が少なかったため、可能な限り現地の大学を卒業した当地出身の友人から直接情報収集するようにしました。

・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。

エディンバラ大学は創立が 1582 年と大変歴史の長い大学ですが、そこにおいて伝統的な部分と革新的な部分がうまく融合されている点に大変な魅力を感じ、留学校として決定するに至りました。特に私が学ぶデザイン情報学のコースは、創設まだ 3 年にも満たないコースで、既存の学問領域の枠にはまらない自由な発想が奨励される点が大学を選択するうえで大変重要でした。

・昨年度、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。

昨年度は東京に拠点を置くサイバーセキュリティのベンチャー企業でマーケティング・マネージャーとして働く過程で、シンガポールやフィンランドをはじめとする世界各国のカンファレンスにて出展活動を行ったり、イスラエルで実施された米マイクロソフト社のアクセラレータープログラムに参加するなど、同社の海外進出に向けた積極的なヒアリングおよびアライアンス提案等を行いました。またこれらの活動を毎日新聞や日経ビジネスといった国内主要メディアに取り上げて頂くことで、国内における海外ビジネスに関する知見を周知

するための啓蒙活動も実施しました。